

## 第5回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会

- 日 時 平成27年10月6日(火) 午後3時～5時20分
- 場 所 府中市役所北庁舎3階第1会議室
- 出席者 委員側：都留会長、並木副会長、鬼山委員、嵯峨委員、鈴木委員、中島委員、  
藤田委員、堀江委員、宮嶋委員、森委員  
事務局側：町田政策総務部長、佐藤政策課主幹、大沢政策課長補佐、大木主査
- 議 題
- 1 今後の進め方について
  - 2 人口ビジョン素案について
  - 3 総合戦略素案について
  - 4 その他
- 配布資料
- 資料1 今後の進め方について  
資料2 人口ビジョン素案  
資料3 総合戦略骨子案
- 傍聴者 5名

## 1 議題

### (1) 今後の進め方について

- 資料1をもとに説明（事務局）
  - 事業者ヒアリングについて、現在2社と調整中です。なお、実施時期が予定よりも遅くなるため、本協議会への反映は難しい状況ですが、今後の市政運営における庁内の参考資料として活用していきたいと考えております。（事務局）
  - 事業者ヒアリングの実施はなるべく早くお願いします。また、次回会議で答申案の協議を行うこととなりますが、答申のアウトプット・イメージをこの場で共有したと思いますので、事務局から説明してください。（会長）
- 答申は、本日の資料である人口ビジョン、総合戦略に加え、附属資料として、関連する条例や規則、アンケート報告書等を合わせたものとするのを考えております。（事務局）
- 答申は、今の事務局からの説明に加え、冒頭にサマリーを追加したいと思います。サマリーは、次回事務局から提案いただき、検討しましょう。（会長）

### (2) 人口ビジョン素案について

- 資料2をもとに説明（事務局）
  - P44に記載のあるとおり、将来の人口展望を決めることとなりますが、本日はこの点についてご議論いただきたい。なお、P39の3つの視点については、総合戦略素案のP4～5で挙げられており、国の総合戦略の方針から府中市の総合戦略の方針を導き出す重要な視点です。P39までは、基礎情報となりますので、次回会議までにご確認いただき、ご意見があれば提供いただきたい。本日は、核心となるP40以降についてご意見をお願いします。（会長）
  - P39の視点2について、「障壁を軽減する」という文言が記載されているが、障壁は乗り越えるものであるため、表現を見直していただきたい。（会長）
  - P39の視点1について、全国的な人口動向と、全国的に総合戦略が展開されることの2つが、今後社会移動の縮小につながるという関係性を記載しているが、内容が飛躍しており、分かりづらいと思います。例えば、人口動向というと都市に人口が集中するイメージがあります。一方で、今後、社会移動が縮小すると書かれていますが、どのような意味なのか分かりにくいです。地方が総合戦略を作ることが、どう社会移動に関係するのかも分かりづらいと思います。（委員）
- 全国の人口動向は減少傾向にあるかと思えます。また、全国の自治体において、東京の一極集中を減らそうとそれぞれの自治体で戦略を策定するため、戦略に基づく施策に効果が出てくれば、結果として府中市への社会移動が減少することになると分析しております。（事務局）
- 簡単に言えば、何もしなければ全国的に人口は縮小するということ、そして、各自治体が頑張れば、少なくとも府中市への社会移動は減少するということでしょうか。「今後想定される社会移動縮小の影響を抑制する」という言葉の意味が分かりにくいと思います。（会長）
  - 転入超過で支えられてきた府中市ですが、社会移動が縮小すると、転入者が少なくなるということでしょうか。（委員）
  - これまでは社会増に支えられてきましたが、今後はそこに頼れないという意味になります。（会長）
  - 人口動向について、全国の人口は減少すると思えますが、三大都市圏への流入はまだ続くと考えら

れますが、「社会移動が縮小する」とはどのようなことですか。(委員)

●「全国的な人口動向」の文言を、「人口減少」とはっきりと書けば意味が通じると思います。(委員)  
→全国的に人口が減少しますので、全体数が減ります。このため、同じ率で移動があったとしても転入数は減るということです。(事務局)

●パイが減るから流入が減るということですね。都市圏への人口流入についてはあえて考慮していないということでしょうか。(委員)

→都市圏については、人口流入があるのですが、後段の部分で、各自治体の戦略が有効に機能すれば、都市圏への転入が減少するという分析になっております。(事務局)

●各委員の発言にあるとおり、意味が分かりづらいため、次回までに表現を修正いただきたい。(会長)

→「転入超過がなくなるように」という方向性で修正したいと思います。(事務局)

●合計特殊出生率の目標 1.6 は、かなり高い数値であるため、段階を踏んで目標達成を目指していくことが現実的だと思います。(委員)

→配布したシミュレーション結果は、目標を実現する時点をどこに置くのかというシミュレーションを行っておりますので、既に段階的な目標設定になっています。(事務局)

●総合戦略素案で設定している H31 年度の出生率に関する目標値は、人口ビジョンの目標値と連動しているのですか。(会長)

→人口ビジョンで将来展望を定めた後に、総合戦略の目標値に落とし込む方針であり、総合戦略の値は仮の値と考えていただければと思います。(事務局)

●例えば出生率を H30 年度に 1.4 とし、H40 年度に 1.6 というような設定は可能ですか。(会長)

●パターンをどれにするのかと言うことですが、できるかぎり高い数値を設定していただきたい。根拠としては、P36 を見ると、他市では学生が転入したとしても卒業すると転出していく傾向が強いですが、府中市は学生が転入してきた後、卒業して転出するタイミングにおいて他市と比較して女性が多く残っているという事実があります。この特徴、ポテンシャルを活かすと良いのではないのでしょうか。また、出生率については、もともと府中市は高い値です。国は出生率 1.8 を目指しており、ポテンシャルを持っている府中市にはできる限り頑張ってもらいたいと考えています。今回の地方創生の中で府中市は、基本目標 3 を頑張ることに重要な意義があると考えます。(委員)

●今の意見に賛成します。市場の規模を維持する上でも人口維持は重要ですが、そのためにはプロセスがとても重要であり、政策的にどうやって目標を実現していくのがポイントになります。政策が乏しく目標達成が難しい場合には、1.6 を目標として設定した戦略を出すことはできません。政策と目標はセットで考えることが必要になりますので、総合戦略素案の内容を協議したうえで、もう一度将来展望における出生率等について議論したいと思います。(会長)

### (3) 総合戦略素案について

●資料 3 をもとに説明 (事務局)

●本日の議論は、時間の制約もあるので、まず基本目標 3 について議論したいと思います。基本目標 3 は総合戦略の中核的な部分です。目標をどう政策的に実現していくのかをについて議論していきたいと思います。(会長)

### <基本目標3>

- P12 に合計特殊出生率が数値目標として挙げられています。政策的にどう誘導するのか、目標を達成できる政策なのかという観点で P13 の取組を見てみると、記載してある内容はそれぞれ重要であると思いますが、目標を達成するために十分であるとは言えない内容ではないでしょうか。出生率を高めるためには、保育にかかるコストを基本的には無料にしていく、子どもを 1 人産んだだけでは目標を達成できないので、2 人目、3 人目など子どもが増えれば増えるほど支援を手厚くする政策が必要であると考えます。(会長)
- 前回の会議でも発言しましたが、P13 の基本目標の下の階層が 1 つしかありません。生むときと、生んだ後の支援の体制を分けて記載した方が良いと思います。基本目標 1 についても同様ですが、それぞれの目的に対する手段がもう少し必要ではないでしょうか。少なくとも、基本目標 3 は出産までの支援、生んだ後の子育ての支援という 2 つに分けて整理することを提案します。(委員)
- 前回の資料と比べると、教育に関する記載が削られてしまったのはなぜですか。(委員)
- 前回の会議で、就学後の教育は削除することとなりましたが、就学前の教育は残すという方針であったと思います。(委員)
- 以前、提供いただいた子育て調査の報告書を見ると、施設の問題や経済的な支援が必要であるとの声が市民から上がっているため、もう少し具体的な施策を入れられないでしょうか。(委員)
- P13 の①の主な取組ですが、「市立保育所を重点化し」とありますが、市だけで問題を抱えるのではなく、地域にいる人たちを活用することが重要であり、ボランティアの方々をバックアップすることが大切だと思います。基本目標 4 では空き家を活用するとなっていますが、子育て支援だけでなく、高齢者など多世代の方々が活用できる環境を整えていくことで魅力的なまちを実現できるのではないのでしょうか。(委員)
- アンケート調査からニーズもあり、また、出産適齢期の女性も多くいるという府中市の強みを活かしていくことが必要とのご意見がありましたが、私も同感です。全ての求められる施策を総花的に実施することは不可能ですが、施策に優先順位を付けてそこを重視していくということ自体が市民にとっては重要なメッセージになると思います。そこで、具体的な政策・施策についてももう少し具体的に書いてもらいたい。次回までに、経済的な施策やソフト面でのサポートなど、市としてなにができるのかをもう少し具体的に落とし込んでいただきたい。(会長)

### <基本目標1>

- 基本目標 1 について、事業者アンケート結果の報告を見ると、小さな企業の方が市内居住の割合が高くなっている。市内居住は、企業側にも交通費の節減のメリットがあり、従業員にも子育てや介護と仕事の両立ができるなど、双方にとってメリットがあります。メリットがあるということを現状と課題にも入れ込んでもらいたいと思います。(委員)

### <基本目標2>

- KPI で「観光に関するホームページのアクセス件数」がありますが、SNS などを活用するなど、時代に合った指標の方が良いのではないのでしょうか。(会長)

- ホームページで情報提供していますが、その上を行く情報提供をしていく必要があると思います。主な取組に、「漫画」という切り口が出てきましたが、映画のプロモーションなども行っているため、限定した言葉を入れるのは良くないのではないのでしょうか。(委員)
- 東京外国語大学との連携もぜひ入れてほしいです。P11のようにオリンピック関係で記載がありますが、東京農工大学と同様に文章の冒頭に来るような表現にしてほしいです。(会長)
- 先ほど指標の話がありましたが、まちの観光情報提供媒体としては、ホームページの役割も大きいと思います。SNSは個人情報の発信であり、ホームページのアクセス件数を削除する必要性はないのではないのでしょうか。(委員)
- ホームページのアクセス件数は残して良いと思います。ただし、目標値の設定が重要です。目標値を2倍、3倍にするのであれば意味があると思いますが、微増程度であれば意味がないと思います。目標値設定は難しいと思いますが、自然に達成できるような目標値では意味がないと思います。(委員)
- 「観光に関するホームページ」となっていますが、観光協会が管理するホームページだけではなく、様々なホームページがあります。この数値は、観光協会だけの数値とするのか、他も入れているのかを整理する必要があると思います。(委員)
- このKPIは考え直してもらいたい。銀行のホームページはインターネットバンキングのために預金者がアクセスする能動的なインセンティブがありますが、そうでないホームページは、待つスタンスが強いと思います。待つのではなく、能動的な内容を目標にすることが良いのではないかと思います。(会長)
- P10(1)の①に「市民・各種団体等が協働で取り組む」ということが示されていますが、それについてのKPIや主な取組がないと思います。市民が市の魅力について考える機会があると良いと思いますが、にぎわいを創出するという観点からも何かしら追加できないのでしょうか。(委員)
- P10の主な取組の文言ですが、「けやき並木や東京競馬場」という文言がひっかかります。もう少し考えていただきたい。(委員)
- 様々な意見が出ましたが、事務局で指摘内容を検討いただきたいと思います。(会長)

#### <基本目標4>

- P16において「自治会加入率」がKPIになっています。以前は、「見守り制度の登録者数」が指標になっていましたが、どちらが良いか悩ましいところです。基本的に自治会加入率を上げることは良いことですが、全国的にも加入率が落ちているなかで、住民が自治会に入らないことも想定されますので、KPIとして設定して大丈夫なのか検討いただきたいと思います。(会長)
- 数値目標として「住みよいと感じている市民の割合」と記載されていますが、現状値が94%と十分高い水準であり、あえてこの指標を使う必要があるのでしょうか。(委員)
- 当初は「治安の悪化を感じている市民の割合」という指標を設定しておりましたが、数値目標として適さないといったご意見もありましたので、全体を包含する安心した暮らしを示すことができる指標という意図で新たに設定いたしました。
- 前回は「各コミュニティセンター圏域でのコミュニティ事業参加者数」、「空き家を活用したコミュニティ事業活用事例」でしたが、もう少し客観的な目標に見直したということです。(会長)
- 現状と課題の書き方についてですが、良いところを書いて課題を書く論調が良いのではないでしょう

か。基本目標2はそのような構成になっています。基本目標3、4はネガティブな現状のみ書かれているので、アンケート調査の結果の内容など、良いことも書いた上で問題提起した方が良いと思います。

(委員)

- 今のご意見は、無理して明るいことを書くのではなく、ポテンシャルがどこにあるかということを示した上で、課題を示すという考え方になると思います。(会長)
- 先ほども委員から意見が出ましたが、例えば、他市では転出しているにもかかわらず、府中市は20代前半の女性が留まっているということがポテンシャルですよね。その上で課題があると言った表現にすると良いのではないのでしょうか。(会長)

### <基本目標3>

- 目標値についてどう設定すべきかについて、できれば結論を出したいと思います。先ほどの委員からは、ポテンシャルもあるため、目標も高く設定すべきであるのご意見がありました。具体的な施策のご意見もありましたが、それを踏まえ目標についてご意見をいただきたいと思います。(会長)
- 目標値を定めるとなっていますが、協議会として1つに決定しないといけないのでしょうか。(会長)  
→いろいろなパターンを想定できなくはないですが、できれば結論として1つにさせていただきたいと思います。(事務局)
- 今日の段階で、基本目標3の施策の具体策が弱いため、本日判断するのは難しいのではないのでしょうか。(委員)
- 目標を達成するためにはこのような政策を打っていく必要がある、と我々から提言することも考えられます。目標を立て、それを実現するための政策を展開しなければなりません、現状で記載されている施策では物足りないと思います。(会長)
- 労働者の視点からすると、子育てにおいて、仕事を続けたいけど、仕事を休まなければならない状況になる人が多い。結局、待機児童の問題など入れる保育所を探して引っ越すことになったり、実家に帰るなどの方法を選ばざるを得ないこととなります。休日における保育サービス体制がない中で、小売業の人たちは子育てが非常に難しいと思います。女性だけで子育てするのではなく、男性の参加や地域での支援なども必要になります。また、子育てに関する冊子を駅でも簡単に手に入れられるようにするなど、府中に住んでいて良かったねと言われるまちになると良いと思います。(委員)
- 出生率を上げるためには、究極的には雇用システムや働き方を変えていく必要があると思います。(会長)
- 戦略素案に具体的な施策を追加した上で次回協議したいと思います。次回は16日もしくは19日までに事務局から素案を送付いただきたいです。(会長)
- 非常に難しいと思いますが、この施策を実施すると出生率が何ポイント上がるのか、ということ示してもらいたい。大まかなものでもかまわないので、お示しいただきたい。(委員)
- 今後修正いただくとのことですが、基本目標1、3については現状と課題と目標と施策のリンクが特に弱いと感じます。(委員)
- 今回のテーマの中で、最重要である基本目標3については工程表(ロードマップ)が必要だと思います。我々が判断する材料として、工程表(ロードマップ)を示すことは可能ですか。(会長)  
→施策を実施したことで出生率が何ポイント上がるのかを定量的に示すことは難しいです。(事務局)

- 定量的に出すことは難しいとは理解していますが、この施策でこれくらい上げたい、という考えを示していただきたい。(委員)
- 施策自体の厚みを出すということは検討することができると思いますが、その結果を数値化することは難しいと思います。(事務局)
- どのような順番で、どのような政策をとっていくことで、それに近い数値が出せると想定されるのかという情報が欲しいと言うことです。(会長)
- そもそも地方創生は、各自治体が努力していかなければならない問題です。各自治体が決めた目標に向けて最大限努力していくというものであると思います。市が想定したシミュレーションが1.4と1.6であれば、高い方を選ぶべきであるという判断になるはずですが、仮に1.2と1.4であれば、1.4を目指しましょうという判断になるべきです。(委員)
- 多摩地域の中で人口を奪い合っても仕方がない。府中市で子どもを育てて良かったと思えるという原点を忘れず、検討いただきたいと思います。(会長)
- 最後に3点ほど指摘します。総合戦略P12の現状と課題に、「民間調査では」という文章はカットする方が良いと思います。人口ビジョンのP2の図の単位は「万人」だと思います。P28のアンケート調査に、それぞれの項目ごとに「無回答」が示されていますが、一般的には無回答は排除して集計するものかと思います。(委員)

以上